



全国共同制作オペラ 東京芸術劇場シアターオペラvol.16

レオンカヴァッロ／歌劇『道化師』 マスカーニ／歌劇『田舎騎士道』

新演出／イタリア語上演、日本語・英語字幕付き 指揮：アッシャー・フィッシュ 演出：上田久美子

Ruggero Leoncavallo: I Pagliacci Pietro Mascagni: Cavalleria Rusticana

カヴァレリア・ルスティカーナ

物語は時空を超え、現実の『圧』を解き放つ

宝塚で活躍した演出家の上田久美子が、オペラ初演出。「まっさらな感覚」が新風を吹き込む。

「昔から伝統芸能に興味を抱いていました。ルネサンス以降、欧米の芸術家は先人をいかに乗り越えようかと考えますが、日本では歌舞伎俳優が『誰々のお兄さんから教わった型で演じます』と口にしますね。そこに、日本人の『個の意識の薄さ』を感じます。伝統芸能の人々は芸術家よりは継承者かな、と。でも、それも面白いですね。数百年前の西洋のダンスの動きは今や分からないでしょうが、お能やお茶なら数百年前の動きもテンポも体感できます。そこで、日本の伝統芸能と西洋のオペラを融合してみたくなりました」

『道化師』と『田舎騎士道』。世紀末のオペラ二作と現代を繋ぐ

「今回、19世紀末イタリアのオペラを二作取り上げます。先にレオンカヴァッロの『道化師』を、続いてマスカーニの『カヴァレリア・ルスティカーナ』を『田舎騎士道』と題して。日本ではオーソドックスな演出が好まれるようですが、東京芸術劇場はコンサートホールですので、昔ながらのステージはできません。そこで、西洋的な

芸術観のもと『新しいもの』を創るべく、文案にヒントを得て、歌手とダンサーの二人で一つのキャラクターを作ってみようと考えました」

目指すポイントは、我々があえて目を向けない「社会の閉塞感」の表出

「二作は共に『ヴェリズモ(真実主義)』のオペラです。当時、自然主義が勃興した欧州で、貴族社会や神話ではなく、庶民の生活を表現した潮流であり、『オペラも貧しさを描くんだ』と驚かれたようです。今回は、設定をイタリアの田舎から関西の町の路地裏に変え、イタリア語の歌詞はそのままですが、ダンサーは現代の日本人を演じます。面子を潰された男たちが決闘する『田舎騎士道』のドラマは、深夜のコンビニ前でたむろする若者が主人公でもおかしくないでしょう？ 逃げ場のない社会で生き続ける人々の話ですね」

外に出れば違う世界がある。でも現状にしがみついた人々

「『田舎騎士道』では現実感が切ないです。サントウツァ [聖子] がトゥリッドウ [護男] に執着するのも、コミュニティで居場所を見つけれず、孤独への恐怖を恋愛依存で癒したいからでしょう。道化役者が年若い妻を舞台上で刺し殺す『道化師』でも、カニオ [加美男] がネッタ [寧々] にしがみつくとのは依存心の表れですね。『道化師』は大衆演劇の世界に置き換えられますが、ある座長さん夫妻に取材したら『随分前、似た話があった。奥さんは斬られても舞台を務め、警察沙汰にもせなんだ』と教わりました(笑)。ちなみに、小さな社会に生きる人々の群像は、『道化師』なら『みんで芝居を覗よう』と歌う場面に象徴されますが、私の眼にはそれが『孤独を癒す共同体』に見えてしょうがないのです。知人に『こういうの、関西圏だとどんな感じかな』と尋ねたら、『そうやな。阪神の試合をみんで覗にゆこか、かな?』と言われ、納得しました(笑)」

物語は時空を超えて伝わり、現実の『圧』を解き放つ

「古代史と繋がる奈良の史跡エリアで育ちまして、畑を掘れば埴輪が出て大変なことに(笑)。でも、大学を出て東京で働くと社会の息苦しさに直面し、そこから離れたくて劇場に通い始めました。イスラエルの劇団が現地の戦禍を抽象的に見せてくれると、『自分の知る狭い世界の外にも世界がある』と実感できたのです。その後、宝塚歌劇団に入り演出を手掛けましたが、これからはフリーで活動します。現実社会の『圧』を解き放ち、狭い視野を俯瞰に変えてくれるのが劇場です。みなさまが、新しい視点から、今生きている世界を眺めてくだされば嬉しいです！」

取材・文：岸純信 (オペラ研究者)

愛憎のもつれを題材に、観客の心をとらえた二作

《田舎騎士道(カヴァレリア・ルスティカーナ)》は、作曲家マスカーニが1890年にローマで発表した70分ほどの短いオペラ。シチリアの庶民層の男女の愛と嫉妬から、面子を潰された男たちの果し合いをドラマティックな音楽で描き、初演から空前のヒット作になった。そこで、そのニュースを聞いた作曲家レオンカヴァッロが「同規模の短さのオペラを書けば、抱き合わせて上演してくれるかも?」と思いつき、書いたのが『道化師』(1892、ミラノ)である。彼の狙いも見事に当たり、巡業先の舞台上で俳優が女優の妻の浮気を問い詰め、逆上して刺し殺すという血腥いストーリーが、『田舎騎士道』に劣らぬ人気を得た。この二作はどちらも、初演時と同時代の物語に設定され、市井の人々が愛憎のもつれから殺人を引き起こして幕となる「ヴェリズモ(真実主義)」のジャンルに属するもの。親しみやすく、時に烈しく生々しい曲調が観客の心をついて離さない。

文：岸純信



Ueda Kumiko

©前田 真

2月3日(金) 18:30開演 5日(日) 14:00開演 コンサートホール 詳細はP9へ

指揮：アッシャー・フィッシュ 演出：上田久美子

出演：『道化師』

カニオ [加美男]：アントネッロ・パロンビ / 三井 聡* ネッタ [寧々]：柴田紗貴子 / 蘭乃 はな* トニオ [富男]：清水勇磨 / 小浦一優 (芋洗坂係長)* ベッペ [ペーペー]：中井亮一 / 村岡友憲* シルヴィオ [知男]：高橋洋介 / 森川次朗*

【田舎騎士道(カヴァレリア・ルスティカーナ)】

トゥリッドウ [護男]：アントネッロ・パロンビ / 柳本雅寛* サントウツァ [聖子]：テレサ・ロマーノ / 三東瑠璃* ローラ [葉子]：鳥木弥生 / 高原伸子* アルフィオ [日野]：三戸大久 / 宮河愛一郎* ルチア [光江]：森山京子 / ケイタケイ*

【両演目出演】やまだしげき* / 川村美紀子* *ダンス出演

管弦楽：読売日本交響楽団 児童合唱：世田谷ジュニア合唱団 ほか

*愛知公演あり



Asher Fisch

©NIK BAHIG



Antonello Palombi